

特別支援教育だより 10月号

令和5年10月26日発行

こころのお便り

杉並区立高井戸第四小学校

校長 本橋 忠旗

指導教諭 早川 宏 (たかし教室教員)

1. 99人に合う靴だって……



これは、絵本「きみのことが だいすき」(いぬいさえこ作・絵)の一節です。

99人に 合う 靴だって きみに合わなきゃ 意味がないんだ

みんなが 平気な顔をしていても きみが ちょっといたいな なにかへんかも

そう思ったときは むりをしなくたって いいんだよ

◎ 「99人に合う靴だって、きみに合わなきゃ意味がないんだ」

これは、特別支援教育を考える上で、さらには、一人一人の学び方を大切にした教育を考える上で、非常に大事な言葉です。現在の子供たちへの様々な指導方法は、長年の研究や調査のデーター、社会全体の状況などによる発達の平均値や基準値によるものです。しかし、「平均的な子供」などいません。100人の子供がいれば、100通りの個性、育ち方、学び方があります。子供の足を靴に合わせるのではなく、子供の足に合う靴を選ぶ考え方やセンスが私たち大人には必要ですね。

◎ 「みんなが平気な顔をしていても、きみがちょっといたいな なにかへんかも そう思ったときは むりをしなくたって いいんだよ」

この言葉も、特別支援教育や一人一人の学び方を大切にした教育にとって大切なことです。「楽しい」「楽しくない」、「おもしろい」「おもしろくない」、「痛い」「痛くない」など、同じことなのに、人によって感じ方、捉え方はそれぞれ違うことがあります。多くの子供たちが「外でみんなと遊ぶのは楽しい」と感じていても、中には「実は、図書館で静かに本を読んでいることが楽しい」と感じる子供もいます。

◎ 子供というのは、「……でなければならない」「……であるはず」と決めつけるのではなく、「99人に合う靴だって…」「みんなが平気な顔をしていても…」、そうではない子供がいるということを私たち大人は忘れてはいけないと思います。



(裏面へ)

2. 新聞の相談コーナーから

◎ある新聞の相談コーナーからです。

40代女性。中学1年の息子は勉強が苦手で嫌いです。夫は、「いい高校、大学へ行ってほしい。だから勉強しろ。普通以下だと就職先がない」と追い詰めます。

息子は勉強の取りかかりが遅く、集中力も続きません。成績は下の方です。ただ、学校の先生によると、クラス活動などでは周りをよく見て必要な声掛けや手助けをするしっかり者タイプのこと。部活も熱心で責任感も強い方です。

私は、大企業に就職することが人生のすべてではないと思っています。専門学校で知識や技術をつけるのもよいと思っています。

息子に無理やりにでも勉強させないと本当に将来はないのでしょうか。ある時、息子が「スポーツに関する仕事がしたい」と言ったら、夫は「食ってはいけない」と否定していました。何が息子にとって幸せなのでしょうか。

これに対して、ある大学の先生による回答は・・・

親として心すべきは、子どもに何かを与えることではなく、その子が本来もっているものを奪わないことです。学歴を重視する生き方があっても結構ですが、それを強制しても幸せにならないことを、夫はなぜ分からないのでしょうか。

わが子のためとの親の思いは、ともするとその子本来の姿も、時代の趨勢も見誤りがちです。今、教育界はこれまでの知識偏重を見直し、たしかな自己肯定感で人間関係を紡いでいく力に着目し始めています。

勉強は苦手でも、周囲への思いやりと責任感にたけていること。息子さんの未来は息子さんなりに切り開いていけるはずです。勉強嫌いといっても、まだ学ぶ喜びが分かっていないだけで、いずれ何かを本当に学びたいと思う時が来るかもしれません。その時のためにも、勉強に対するコンプレックスをもたせないことも大切です。

このまま夫の一方的な価値観を押し付け、息子さんの可能性の芽を摘むことだけはどうか避けほしい。夫婦で子育て観が異なるのはつらいですが、折に触れて意見を交わしあう努力は続けてください。親のこうした姿を見て、息子さんは何を大切に生きていくべきか自分で考えてくされることを願いたいと思います。

◎ この事例は、中学生の子供のことですが、小学生の子供たちにも十分あてはまると思います。私たち大人は日々、忙しさに追われていますが、今後、折に触れて、この事例を思い返していただくとよいかなと思います。

